

## 生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画を含む）

（名称） 広陵町地域公共交通活性化協議会

生活交通確保維持改善計画の名称
広陵町地域内フィーダー系統確保維持計画
1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性
<p>広陵町の公共交通は、町唯一の鉄道である近鉄田原本線の箸尾駅、バス路線としては、①広陵町の東部を南北に縦断する高田・平端線、②中央部を通過する高田・竹取公園行き、③西部を走る王寺・五位堂駅行き、五位堂駅・馬見丘陵公園行き、五位堂駅・馬見南二丁目行きがあるが、このうち、①東部地区を走る唯一の路線である高田・平端線が利用者の減少によって平成21年2月末で休止となった。また、これ以前にも、南東部地域の路線バスが廃止になり、在来地域の交通弱者及び高齢者の交通手段の確保が最重要課題となった。</p> <p>真美ヶ丘ニュータウン地域についても、路線バスは比較的充実しているが、公共施設の多くが在来地域にあるため、そこまでのアクセス手段が課題となっていた。</p> <p>こうしたなか、廃止路線やバス運行休止路線地域を中心として、平成21年4月から、運賃無料のコミュニティバス「広陵元気号」の運行を開始した。当初は、前日までの予約が必要となる「予約型乗合自動車」として運行していたが、平成24年2月に「定時定路線運行」に変更した。平成25年2月には運行ルート、ダイヤ及び車両の見直しを行ったが、その後もさらなる利便性向上を望む声が多く寄せられていた。</p> <p>また、路線バスについても、町内と大和高田駅を結ぶ上記②路線の利用者が減少し、維持が困難であるという状況を受け、平成26年10月からは赤字部分を関係市町で負担することで、運行を維持している。</p> <p>このような状況を踏まえ、鉄道・バス・タクシーの各公共交通が連携して、まちづくりと一体となった公共交通の活性化に取り組むことが必要であると考え、広陵町の公共交通のマスタープランとなる「広陵町地域公共交通網形成計画」を平成28年5月に策定し、これに基づき、平成28年10月1日から広陵元気号を有料化した上で本格運行を開始した。</p> <p>平成30年度には、運行に係る効果検証を実施した結果、大幅な見直しが必要となったことから、令和元年10月1日から新たな運行計画で運行を開始した。</p> <p>今後も広陵元気号を運行していく上で、大幅な運行赤字が生じることが想定されるが、高齢化の進行とともに、必要性もより一層高まることから、地域公共交通確保維持改善事業として実施する。</p>
2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果
(1) 事業の目標
<p>広陵町地域公共交通網形成計画では、平成26年度の広陵元気号の利用者数24,670人に対して、平成33年度(2021年度)には10%増の27,000人を目指していたところ、令和元年度(2019年度)は、54,373人であった。</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、前年度の利用者数と同等の54,373人の維持を目標とする。</p>

## (2) 事業の効果

### ア、広陵元気号 中央幹線

広陵町の中央部を南北に縦断し、大和高田駅から当町が組合立で設置している国保中央病院までを結び、住民の通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。

### イ、広陵元気号 南部支線

広陵町の東部地域から大和高田駅のほか、公共施設やスーパーに連絡し、住民の通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。

### ウ、広陵元気号 北部支線

広陵町の北部地域及び西部地域から中心部である各公共施設や商業施設に連絡し、住民の買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。

## 3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

- ・将来の公共交通利用者である町内の小学生を対象にバスの乗り方教室を実施（広陵町、奈良交通株式会社）
- ・広陵元気塾への出張モビリティ・マネジメント（政策間連携）を実施（広陵町）
- ・将来の公共交通利用者である町内の小学生を対象に広陵元気号の標語募集（広陵町）
- ・広陵元気号の利用満足度向上を狙いお買い物ポイントカード制度を継続（広陵町）
- ・さまざまな決済方法を提供することにより、利用者の利便性向上を目指し、ICカードを導入し、継続して運用している。（奈良交通株式会社）
- ・よりわかりやすく、親しみの持てるバスであり続けるため、車両にラッピングを行い、ラッピング車両で運行を継続している。（広陵町）
- ・よりわかりやすい情報を提供するため、町内及び近接する公共交通に関する時刻表を掲載し、公共交通総合時刻表を作成（広陵町）
- ・運転免許返納事業を平成 30 年度から実施し、運転免許返納者に対し、ICOCA 又は広陵元気号の乗車券を配布（広陵町）
- ・広陵元気号の利用啓発を地域や身近な方へ行っていただき、利用者を増やすために、地域の中からサポーターを募り、広陵元気号応援サポーター制度を実施予定（広陵町）
- ・PayPay を活用したキャッシュレス決済の導入（奈良交通株式会社）

## 4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行システムの概要及び運行予定者

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表 1」のとおり。

## 5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者

広陵町から運行事業者への運行委託料については、運行収入及び国庫補助金を運行経費から差し引いた額を負担することとしている。

## 6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称

奈良交通株式会社

## 7. 補助を受けようとする手続きに係る利用状況等の継続的な測定方法

**【活性化法定協議会を補助対象事業者とする場合のみ】**

※該当なし

## 8. 別表 1 の補助対象事業の基準ニただし書に基づき、協議会が平日 1 日当たりの運行回数が 3 回以上で足りると認めたシステムの概要

**【地域間幹線システムのみ】**

※該当なし

## 9. 別表 1 の補助対象事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」認めた市町村の一覧

**【地域間幹線システムのみ】**

※該当なし
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項 <b>【地域間幹線系統のみ】</b>
※該当なし
11. 外客来訪促進計画との整合性 <b>【外客来訪促進計画が策定されている場合のみ】</b>
※該当なし
12. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 <b>【地域内フィーダー系統のみ】</b>
地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表5」のとおり。
13. 車両の取得に係る目的・必要性 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
従来の車両3台と予備車両1台は、走行距離が10万kmを超えている上に、バリアフリー設備や運賃收受のための必要な設備を備えていなかった。そのため、平成28年10月1日から開始した本格運行では、車両購入により運行サービス水準の向上が図られている。
14. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
(1) 事業の目標
広陵町地域公共交通網形成計画では、平成26年度の広陵元気号の利用者数24,670人に対して、平成33年度(2021年度)には10%増の27,000人を目指していたところ、令和元年度(2019年度)は、54,373人であった。 今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、前年度の利用者数と同等の54,373人の維持を目標とする。
(2) 事業の効果
ア、広陵元気号 中央幹線 広陵町の中央部を南北に縦断し、大和高田駅から当町が組合立で設置している国保中央病院までを結び、住民の通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。
イ、広陵元気号 南部支線 広陵町の東部地域から大和高田駅のほか、公共施設やスーパーに連絡し、住民の通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。
ウ、広陵元気号 北部支線 広陵町の北部地域及び西部地域から中心部である各公共施設や商業施設に連絡し、住民の買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。 また、上記3路線にICカードの対応や車椅子の乗車スペースを有する車両(一部は適応していない。)を導入することで、利便性の向上が図られている。
15. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者、要する費用の負担者 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表6」のとおり。
16. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画(車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策) <b>【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>

※該当なし

## 17. 協議会の開催状況と主な議論

平成30年6月19日 第19回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・平成31年（2019年）10月以降の広陵元気号再編案について
- ・平成31年度（2019年度）予算（案）について
- ・平成31年度（2019年度）事業計画（案）について

令和元年5月22日 第20回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・令和元年10月1日以降の広陵元気号運行ダイヤ（案）について
- ・令和元年10月1日以降の広陵元気号停留所名称（案）について
- ・平成30年度事業報告（案）について
- ・平成30年度決算（案）について

令和元年6月20日 第21回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について
- ・消費税率改定による広陵元気号の運賃（案）について
- ・路線の休止又は廃止に伴う事業計画の変更手続（案）について
- ・令和元年10月1日以降の広陵元気号停留所名称（案）について

令和元年8月19日 第22回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画変更（案）について

令和2年3月 第23回広陵町地域公共交通活性化協議会開催（書面決議）

- ・令和2年度広陵町地域公共交通活性化協議会予算（案）について
- ・令和2年度安心して暮らせる地域公共交通確保維持事業（運行効率化）について
- ・令和2年度事業計画（案）について

令和2年5月 第24回広陵町地域公共交通活性化協議会開催（書面決議）

- ・令和元年度広陵町地域公共交通活性化協議会決算書（案）について
- ・令和元年度事業報告について

令和2年6月 第25回広陵町地域公共交通活性化協議会開催（書面決議）

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について

## 18. 利用者等の意見の反映状況

○広陵町地域公共交通活性化協議会には、利用者代表として商工会、町議会、区長・自治会長会、老人クラブ連合会、婦人会から各1人、合計5人参加している。

○以下のような公共交通に関するアンケート調査を実施した。

《住民アンケート調査》

- ・調査対象：15歳以上（中学生を含む。）の広陵町在住者、2,000人
- ・調査方法：郵送配布・回収
- ・調査期間：平成30年10月16日から10月31日まで

《広陵元気号利用者アンケート調査》

- ・調査対象：広陵元気号の利用者292人
- ・調査方法：職員による聞き取り及び車内配布・回収
- ・調査期間：平成30年10月18日から10月31日まで

《住民ワークショップ》

- ・実施回数：3回
- ・実施日：平成31年1月26日（13人）、平成31年2月16日（13人）  
平成31年3月9日（10人）

- ・参加者募集方法：上記アンケート内で希望者を募った。

## 19. 協議会メンバーの構成員

別紙委員名簿のとおり